

vol.8

T·E·I·B·A·N  
Japan classico

滋賀のモノづくり展

急須で淹れる朝宮茶 / かたぎ古香園・北田園・昇龍園  
祈りのかたち / 井尻彫刻所  
陶のあかり / 卯山製陶  
時の流れに思いを馳せる / 尾賀商店  
たのしく食べ、たのしく生きる / テイリーライフ信楽  
使い継がれる木の道具 / くるみ川木工所  
麻と暮らす / 湖東繊維工業協同組合

あなたを物語る「仕事印」 / サイトウ明印館・江湖庵  
郷土愛から生まれたお酒 / 農事組合法人 すこいええのう鮎河  
心地よい音色の陶琴 / 壺八  
革と向き合う / BLINK LEATHER WORKS  
陶のある暮らし / 丸滋製陶  
軽やかに身につける陶 / 山兼製陶 陶房 準  
土のちから / 山中陶土

2017.6.26 mon-29 thu / 11:00-16:00

29日のみ 14:00 まで

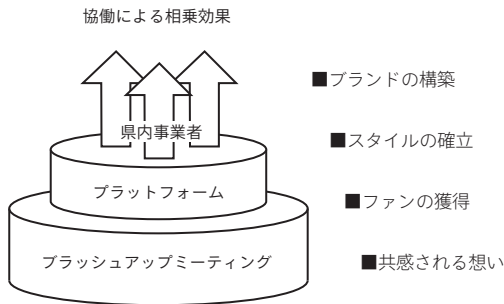
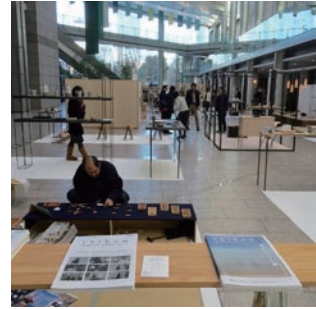
滋賀県庁 本館1階 [県民サロン]

主催 = TEIBAN 商品開発研究会

TEIBAN 商品開発研究会では、従来型の地域ブランドづくりとは異なり、モノ単体の開発だけではなく、個々の企業がブランドの世界観を構築し、生活者からの共感を得てファンを獲得することを目標に活動を行っています。

信楽を中心に始まったこの取り組みは8年目を迎え、現在では地域を越えて多様な業種が参加し、短期的成果よりも参加する事業者自身の成長を感じられる場となっています。これまでにリビングデザインセンター OZONE にて展示会を7回開催し、それぞれのスタイルの確立に向けてチャレンジを繰り返してきました。毎月開催されるブラッシュアップミーティングでは、参加事業者がそれぞれの想いを語り、他者の意見を聞きながら、自らのモノづくりに対する想いを整理します。そしてその想いを具現化するためにモノ（商品）だけではなく空間（店）づくりも行い、自分たちの世界観を表現します。その空間の中で生まれた顧客との対話により、さらに自分たちの想い、作るモノや空間を洗練させていき、ブランドの構築を目指しています。

この取り組みでは、互いがライバルでありながら、協働体でもあります。そして、そのプラットフォームを県がしつらえることにより社会性が生まれます。行政主導でも民間主導でもない「相互推進型の協働」によるこの取り組みが、参加する事業者のみならず地域や滋賀県全体の活性化につながることを期待しています。



# 滋賀のモノづくり展

## 空間を実験・検証する場〈nest 滋賀〉



信楽産業技術試験場の資料整理庫だった一室を〈nest 滋賀〉と名付け、空間作りのための実験の場として活用しています。〈nest 滋賀〉では、商品やその構成のみならず、内装や什器も各事業者が提案し空間を構築します。空間の中で自らの商品を検証し、今後の行動につなげます。

新たな価値を生み出すためには同じところをぐるぐる回らないことが大切となる。そして時代の変化に取り残されないためにも必然的にPDCAのサイクルを速く回していく必要がある。

